

研究課題名	肝外門脈閉塞による求肝性門脈側副血行路の異所性静脈瘤に対する塞栓術の有効性の検討
研究の意義・目的	<p>膵癌や胆管癌、腫瘍形成性膵炎などに行う膵頭十二指腸切除術後の合併症として、肝外門脈が狭くなる、閉塞することによって異所性静脈瘤といわれる血の瘤ができることがあります。この静脈瘤が破裂し、大量出血をきたすことがあります。</p> <p>この疾患は稀で治療法は確立されていません。門脈に金属の筒（＝ステント）をおくことが有効という報告がありますが、それもできないことが多いです。今回私たちはそういった静脈瘤に血管塞栓術を行なった症例の治療の有効性について検討します。</p>
研究を行う期間	公開データベース公開後 ～ 2024年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2012年9月から2020年12月の間に大阪市立大学医学部附属病院で肝外門脈閉塞による求肝性門脈側副血行路の異所性静脈瘤に対し塞栓治療を行なった方が対象となります
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>通常診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <p>診療情報等：【治療開始前の状態、基礎疾患、血管内治療の内容、治療後経過などの診療録、検査データ、画像データの記録】</p>
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院放射線診断科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院放射線診断科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	<p>研究責任者 山本 晃</p> <p>大阪市立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学</p>
本研究の利益相反	<p>利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	<p>大阪市立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学</p> <p>担当者名：山本 晃</p> <p>電話番号：(06) 6645-3831</p> <p>メールアドレス：rad-ocu@med.osaka-cu.ac.jp</p>